

創業の精神

熱と誠

私たちの使命は

社会・産業・暮らしを支えていく製品・サービスを提供し、
社会に貢献していくこと

その原点は「熱と誠」

1912年、畠山一清は「あのかち式渦巻きポンプ」を世に広めるため、荏原製作所を創業。世界的に認められていた井口博士の渦巻きポンプの理論を応用し、水道用ポンプの国産化、災害に備えた水インフラの整備、水道の浄水装置の国産化などに取り組みました。「日本の近代化に貢献したい」「社会の課題を解決したい」という熱意と誠意、「熱と誠」を原動力に、荏原製作所は社会・産業・暮らしを支えていく製品・サービスを提供し、社会に貢献していくことを使命としてきました。「熱と誠」の精神と、製品・サービスの提供を通じて社会に貢献していくという使命は、現在も従業員に受け継がれています。

1912年～

荏原グループの基礎づくり

創業以来、水道用ポンプの国産化、災害に備えた水インフラの整備、水道の浄水装置の国産化などにいち早く取り組み、日本の近代化に貢献しました。

1945年～

社会が求めた荏原の技術

食糧増産用のポンプや農地造成用ポンプを大量に生産し、戦後の国民生活の安定に貢献しました。また、電力不足を解消するため、超臨界圧の発電所に国産第1号機となるボイラ給水ポンプを納入しました。一方で、プラント用機器の輸出や海外拠点づくりを進め、海外進出への体制整備を図りました。

1980年～

社会に広がる荏原の技術

ダイオキシンを完全分解すると同時に残渣をリサイクルする次世代型ごみ処理装置としてガス化溶融炉を開発・実用化することに成功しました。また、今まで培ってきた技術を応用したドライ真空ポンプを開発し、精密・電子事業（現、精密・電子カンパニー）がスタートしました。

2000年～

ガバナンス重視の新たな体制構築

順調に事業拡大を進め、グローバル展開を図ったものの、海外事業の撤退やコンプライアンス関係の不祥事が発生し経営の危機に。経営を立て直すため、2002年より次々とガバナンス改革を実行し、現在に至る強固なガバナンス体制の礎を築きました。

→ P97 監督と執行の両輪で企業価値を高める

2010年～

創業100年を迎え、次の成長へ

事業の選択と集中により、財務基盤の改善と筋肉質な事業構造の確立を図りました。サービス&サポートの強化と海外拠点の拡大、IoT・AIを活用した自動組み立てラインの導入を進め、グローバル市場における競争力を高めています。また、コーポレート・ガバナンスの強化や人事制度改革を行い、ESG経営を進化させました。

2020年～

社会に貢献し続け、グローバルエクセレントカンパニーへ

「技術で、熱く、世界を支える」をスローガンとし、社会・環境価値を同時に向上させていくことで企業価値を高めます。2023年に製品別組織から対面市場別組織へと移行し、長期ビジョン達成に向けて邁進しています。

技術で、熱く、

広がる事業領域

創業から110余年。荏原グループは、「あのかち式渦巻きポンプ」を原点とするコア技術を応用し、組み合わせ、製品群を進化させてきました。国内はもとより世界の社会インフラを支え、安全・安心で豊かな生活を実現しています。

流体解析・制御

腐食・
構造強度

振動・騒音

荏原の
コア技術

エンジニアリング

システム制御

界面制御

建築・産業
カンパニー



給水ユニット



ビルやマンションなどの建築設備や工場設備などにおいて、安定した水供給を担う重要な機器です。

エネルギー
カンパニー



ボイラ給水ポンプ



火力発電では高圧蒸気でタービンに動力を与え、タービンと直結した発電機が回転することで発電しています。ボイラ給水ポンプは、ボイラへ高温の水を送り込むことで、この高圧蒸気をつくり出しています。

インフラ
カンパニー



農業用ポンプ



農業灌漑施設で送水を担う重要な設備であり、農業水を安定的に供給しています。

環境
カンパニー



廃棄物処理施設



廃棄物処理施設の設計、建設から運転管理、メンテナンスまで一貫して手掛け、安全・安心な施設の提供と安定した稼働により、衛生的な暮らしを支えています。

精密・電子
カンパニー



ドライ真空ポンプ



半導体製造工程などで真空をつくり出すために使われています。

排ガス処理装置



半導体製造工程などで使用される有害ガスを、工場の外に排気する前に無害化します。

CMP装置



半導体ウェーハの表面を砥液で研磨し、ナノメートルレベルの平坦化を可能にします。

精密チラー



半導体製造工程などで工程の温度をコントロールするために使われています。

ファン



気体を送るための機械です。ビルやマンションなどの室内に新鮮な空気を送ったり、汚れた空気を外に出す「換気」に使用されています。

冷凍機



大型商業施設や工場に空調用の冷水を供給し、建物全体を冷やしたり暖めたりしています。冷熱環境の最適化によるコスト削減や、省エネルギー・CO₂削減に貢献しています。

コンプレッサ・蒸気タービン



石油精製プラントや石油化学プラントなどの心臓部にあり、原油、天然ガスなどから発生するガスを圧縮しています。

クライオジェニック製品



マイナス162℃という極低温の液化天然ガス(LNG)の輸送・保管に使われるポンプ、液化工程で使われるエキスパンダーで高い技術と安全性が求められます。

排水ポンプ



大雨の際、住宅地や農地などへの水害を防ぐため、雨水を川や海に強制的に排水します。

送風機



トンネル内の空気環境の維持及びトンネル火災時の避難環境確保などのため、トンネル換気設備を納入し、精度の高い換気制御を行っています。

バイオマス発電施設



多種多様な燃料を安定燃焼できる内部循環流動床ボイラの特長を生かした木質バイオマス発電施設の建設、運転管理を通じて、再生可能エネルギーの普及と気候変動対策に貢献しています。

世界を支える

荏原のプレゼンス

荏原グループは、社会のニーズに応え続けて成長を遂げ、グローバルな地位を確立しています。「熱と誠」の精神と、世界を支える使命を胸に、これからも成長を続けていきます。

世界 トップシェア

クライオジェニック
ポンプ・
エキスパンダ

主にLNG液化プラントで極低温の液化天然ガスを移送する役割を担っています。高い技術力が求められるクライオジェニック製品分野において数多くの納入実績があり、世界的リーダーとして認められています。



国内シェア

No.1

標準ポンプ、
冷却塔

国内工場の標準ポンプ

累計生産台数は1,900万台以上。生活を支える水の給排水など多様なニーズに応えるポンプで、快適な住環境づくりと産業の発展を支えています。また、ビルや公共施設の空調向けに熱源機器を提供し、製造からメンテナンスまでの一貫体制で最適なソリューションを提案しています。



廃棄物処理施設での
運転管理受託数

80施設以上

廃棄物処理施設での運転管理受託数は80施設を超え、日々運転管理ノウハウを蓄積しています。このノウハウを活かし、遠隔サポートセンターでは廃棄物処理施設の運転状態をリアルタイムでチェックし、運転の技術支援や最適化支援を行っています。

廃棄物処理施設納入実績
国内外

500施設以上

廃棄物処理施設の設計、建設から維持管理、運営までを一貫して行い、500を超える施設を納入。さらに、ごみ焼却により発電した電力を周辺の公共施設等に還元する、電力の地産地消を行っています。



CMP装置の累計出荷台数

3,000台以上

半導体の微細化・積層化に欠かせないCMP装置を製造しています。ウェーハの表面を研磨し、ナノメートルレベルで平坦化する精緻加工を実現。高い要求水準に応えつつ、日進月歩の技術革新に対応し、半導体の進化を支えています。



世界 トップシェア

石油・ガスプラント(ダウンストリーム)
向けコンプレッサ



石油精製・石油化学プラントの心臓部として、原油、天然ガスから発生するガスの圧縮工程に使用されます。お客様のニーズや各プロセスに対応する幅広いラインナップを用意しています。

排水ポンプが活躍する
国内排水機場等

1,000か所以上

ゲリラ豪雨や台風が起きた際に雨水を河川や海に放流し、街を浸水被害から守る大型の排水ポンプを全国の排水機場に納入しています。近年、異常気象の影響で排水機場の重要性が高まっている中、排水ポンプは皆様の安全・安心なくらしを守っています。

荏原の強み



荏原らしい人材と組織

創業の精神「熱と誠」

起業化

→ P18
「起業化」
＝顧客起点での価値創造



技術力

先進性と
高い信頼性

技術元素表

技術・組織力MAP

→ P34
特集 荏原グループ
技術元素表



社会課題
解決力

持続可能な
社会への貢献

対面市場別5カンパニー

新規事業

→ P63
コア技術の進化と
事業シナジーの好循環



収益性
効率性

健全かつ高水準の
成長実現

ROIC経営

TSRの最大化

→ P26
ROIC経営の社内浸透



透明性

ステークホルダー起点の
誠実な経営

不断のガバナンス改革

Governance to Value

→ P97
監督と執行の両輪で
企業価値を高める



対話

社会との価値協創

ESG経営の深化

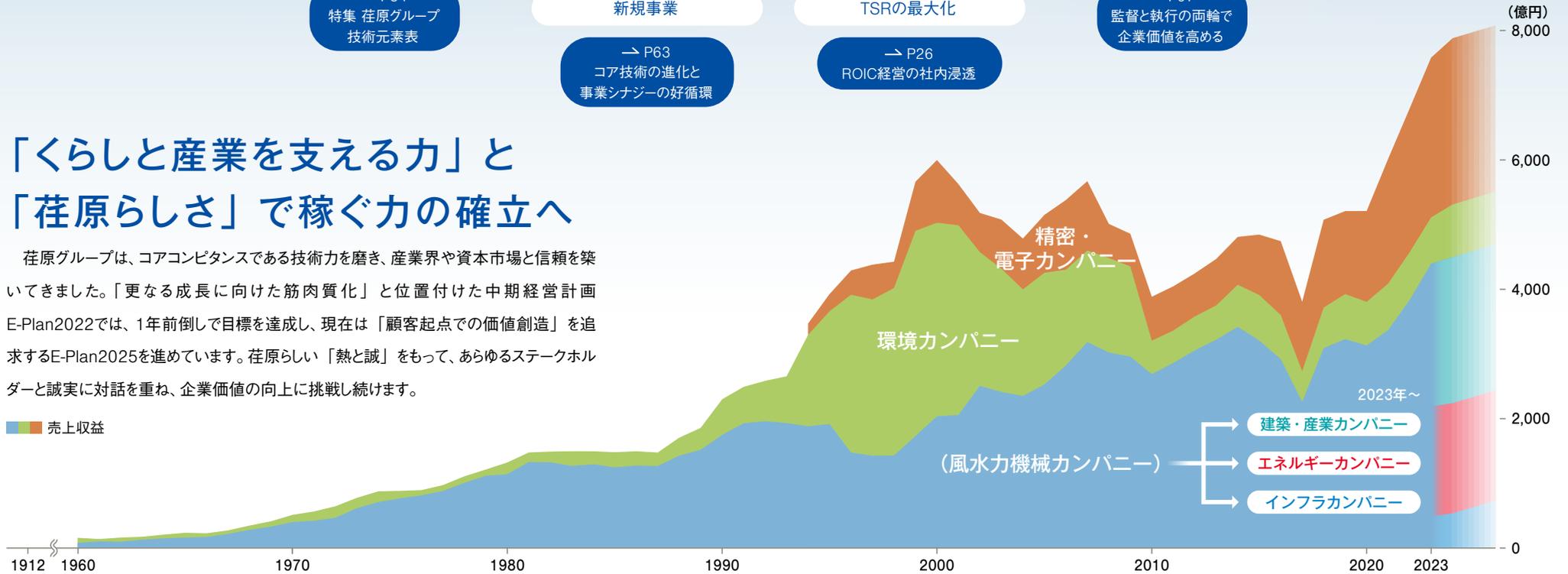
IR活動への注力

→ P118
IRコミュニケーション

「くらしと産業を支える力」と「荏原らしさ」で稼ぐ力の確立へ

荏原グループは、コアコンピタンスである技術力を磨き、産業界や資本市場と信頼を築いてきました。「更なる成長に向けた筋肉質化」と位置付けた中期経営計画E-Plan2022では、1年前倒して目標を達成し、現在は「顧客起点での価値創造」を追求するE-Plan2025を進めています。荏原らしい「熱と誠」をもって、あらゆるステークホルダーと誠実に対話を重ね、企業価値の向上に挑戦し続けます。

売上収益



荏原グループの企業倫理の枠組み

創業の精神 熱と誠

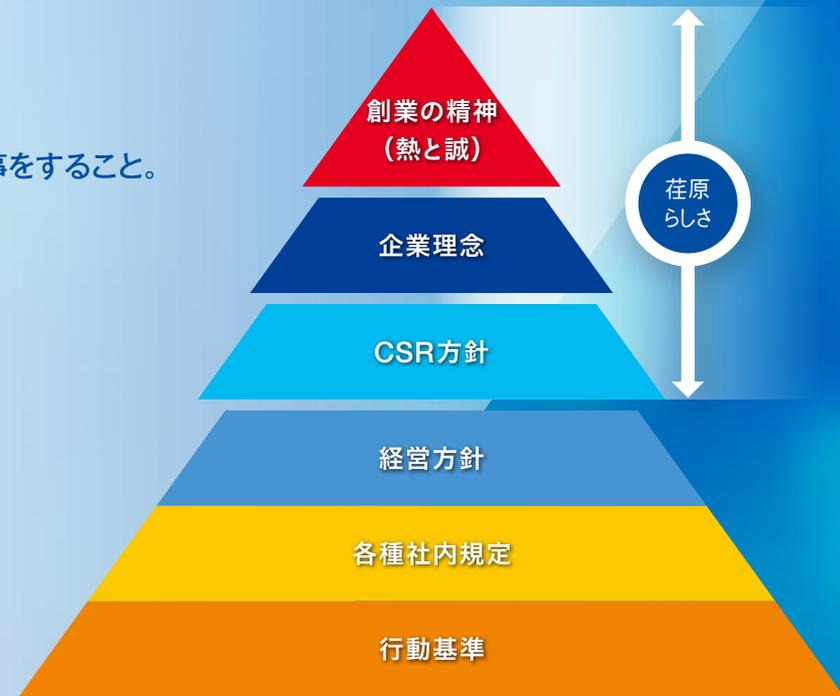
与えられた仕事をただこなすのではなく、自ら創意工夫する熱意で取り組み、誠心誠意これをやり遂げる心をもって仕事をする事。

企業理念

水と空気と環境の分野で、優れた技術と最良のサービスを提供することにより、広く社会に貢献する。

CSR方針

全ての業務を高い倫理観に基づいて実行し、全てのステークホルダーと良好な信頼関係を築き上げる。





イントロダクション

- 1 創業の精神 熱と誠
- 2 広がる事業領域
- 3 荏原のプレゼンス
- 4 荏原の強み
- 5 荏原グループの企業倫理の枠組み
- 6 目次
- 7 編集方針・
ステークホルダーエンゲージメント



Section 1

8 技術で、熱く、世界を支える

— 荏原のビジョン —

- 9 荏原の価値創造ストーリー
- 10 社長メッセージ
- 15 長期ビジョン E-Vision2030
- 17 中期経営計画 E-Plan2025
- 18 「起業化」 = 顧客起点での価値創造
- 19 E-Plan2025 財務目標
- 20 E-Plan2025 非財務目標
- 21 E-Plan2025 5つの重点領域と進捗
- 24 E-Vision2030とE-Plan2025
非財務目標とKPI
- 26 ROIC経営の社内浸透



Section 2

27 企業価値を向上させる

— 荏原の資本 —

- 28 2023年にありたい姿と経営資本の関係
- 30 CFOメッセージ
- 34 特集 荏原グループ技術元素表
- 36 人材戦略
- 40 研究開発・知的財産戦略
- 44 DX戦略
- 48 リスクマネジメント
- 50 コンプライアンス
- 52 水と空気と環境を守る
気候変動に対する取り組み
- 55 環境マネジメント
- 57 グローバルで責任を果たす
人権の尊重
- 58 サプライチェーンマネジメント
- 59 生産マネジメント
- 60 品質マネジメント



Section 3

62 顧客起点で価値を創造する

— 荏原の事業 —

- 63 事業戦略
コア技術の進化と事業シナジーの好循環
- 64 建築・産業カンパニー
- 67 エネルギーカンパニー
- 70 インフラカンパニー
- 73 環境カンパニー
- 76 精密・電子カンパニー
- 79 新規事業



Section 4

85 Governance to Value

— 荏原のガバナンス —

- 86 取締役会議長・報酬委員会委員長による
ステークホルダーとの対話
- 90 取締役
- 91 取締役の略歴
- 93 取締役会の役割と構成
- 97 コーポレート・ガバナンス
- 109 執行役の略歴



Data

- 111 10か年データ
- 113 ESG6か年データ
- 115 企業情報／株式情報
- 117 外部評価
- 118 IRコミュニケーション

編集方針

荏原グループの中長期的な価値創造について、財務・非財務の両面からお伝えすることを目的として発行しています。編集にあたっては、IFRS財団（The IFRS Foundation）による「国際統合報告フレームワーク」と、経済産業省による「価値協創のための統合的開示・対話ガイダンス2.0」、GRIスタンダードを参考にしました。GRI対照表はコーポレートサイトに掲載しています。

情報開示体系



社名表記	「荏原」「当社」は、株式会社荏原製作所単体を示します。また、「荏原グループ」「当社グループ」は、荏原と国内外の連結子会社及び関連会社を示します。
対象読者	荏原グループに関わるすべてのステークホルダーの皆様
報告対象期間	2023年12月期（2023年1月～12月）を主たる報告対象期間としています（対象期間と異なる場合は注釈などを入れています）。
報告範囲	株式会社荏原製作所、連結子会社113社、関連会社3社及び共同支配企業1社（2023年12月31日現在）より構成される荏原グループを対象としています。掲載するデータについて集計範囲が異なる場合、都度明示しています。
発行日	2024年6月28日

将来情報に関する留意事項

本報告書で開示されているデータや将来予測は、本報告書の発表日現在の判断や入手可能な情報に基づくもので、種々の要因により変化することがあり、これらの目標や予想の達成、及び将来の業績を保証するものではありません。また、これらの情報は、今後予告なしに変更されることがあります。従いまして、本報告書記載の情報及び資料のご利用は他の方法により入手された情報とも照合し、利用者の判断によって行っていただきますようお願いいたします。本報告書を利用した結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。

ステークホルダーエンゲージメント

企業経営において、顧客、株主・投資家、取引先、地域社会、従業員などの多様なステークホルダーとの価値協創が重要です。皆様との強固なパートナーシップは、荏原グループの持続可能な成長に不可欠であると考えています。今後も、マルチステークホルダーの皆様と協働し、対話を行いながら、新たな価値創出に取り組んでいきます。

マルチステークホルダー方針

<https://www.ebara.co.jp/sustainability/think/information/stakeholders.html>

ステークホルダー	エンゲージメント例	アウトカム
顧客	<ul style="list-style-type: none"> 営業部門を通じた日常的なコミュニケーション カタログ、ウェブサイトなどによる情報提供 コールセンターによる、ご意見・ご質問の受付と対応 	<ul style="list-style-type: none"> きめ細かなソリューション提供により、顧客ニーズに合った製品を提供 顧客が製品を使用することで、水資源の有効活用や、エネルギー使用効率の改善などの社会課題解決に貢献
株主・投資家	<ul style="list-style-type: none"> 株主総会、決算説明会を通じた情報開示、コミュニケーション 統合報告書、決算説明会、ウェブサイトなどを通じた情報の適時開示 株主・投資家を対象とした工場見学、IR Day、ESG説明会 	<ul style="list-style-type: none"> 経営に対する信頼性の向上 事業活動の改善に向けた経営への誠実なフィードバック <p style="text-align: center;">→ P118 IRコミュニケーション</p>
取引先	<ul style="list-style-type: none"> 製品材料、資材、役務の調達先との調達部門を通じた日常的なコミュニケーション、荏原CSR調達ガイドラインへのご協力のお願い 協力会社様からのご意見・ご質問の受付と回答 協力会社様などの研修会に対する支援 	<ul style="list-style-type: none"> 優れた品質と安全性 市場競争力のある価格 確実な納期の確保による安定的な製品・サービスの提供 価値協創のパートナーシップ向上
地域・社会	<ul style="list-style-type: none"> 地域社会・企業との連携活動 大学との共同研究 EBARA Open Laboratory (EOL) の市民団体とのオープンイノベーション活動 	<ul style="list-style-type: none"> 近隣の住民との良好な関係構築 技術開発、より良い製品・サービスの開発 人材候補の拡大 価値協創のパートナーシップ向上
従業員	<ul style="list-style-type: none"> 社長懇談会・白熱的教室など経営層との対話機会 労働組合との定期的なコミュニケーション 	<ul style="list-style-type: none"> 競争し、挑戦する企業風土 モチベーションの向上と更なるパフォーマンスの実現 心身共に健康に働き続ける職場の実現